

# モモのナシヒメシクイ情報第1号

令和3年4月14日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

トラップによる成虫誘殺ピークはやや早く、誘殺数はかなり多いです。  
幼虫による新梢の芯折れ被害に注意してください。

## 1 発生状況

県内各地に設置したフェロモントラップによるナシヒメシクイの越冬世代成虫の誘殺ピークは、平年と比較して5～10日ほど早く、誘殺数も平年と比較してかなり多い状況です（図1）。

本種は、東海地方では年に4～5回発生するとされており、次世代以降の発生量も多くなることが予想されますので注意が必要です。

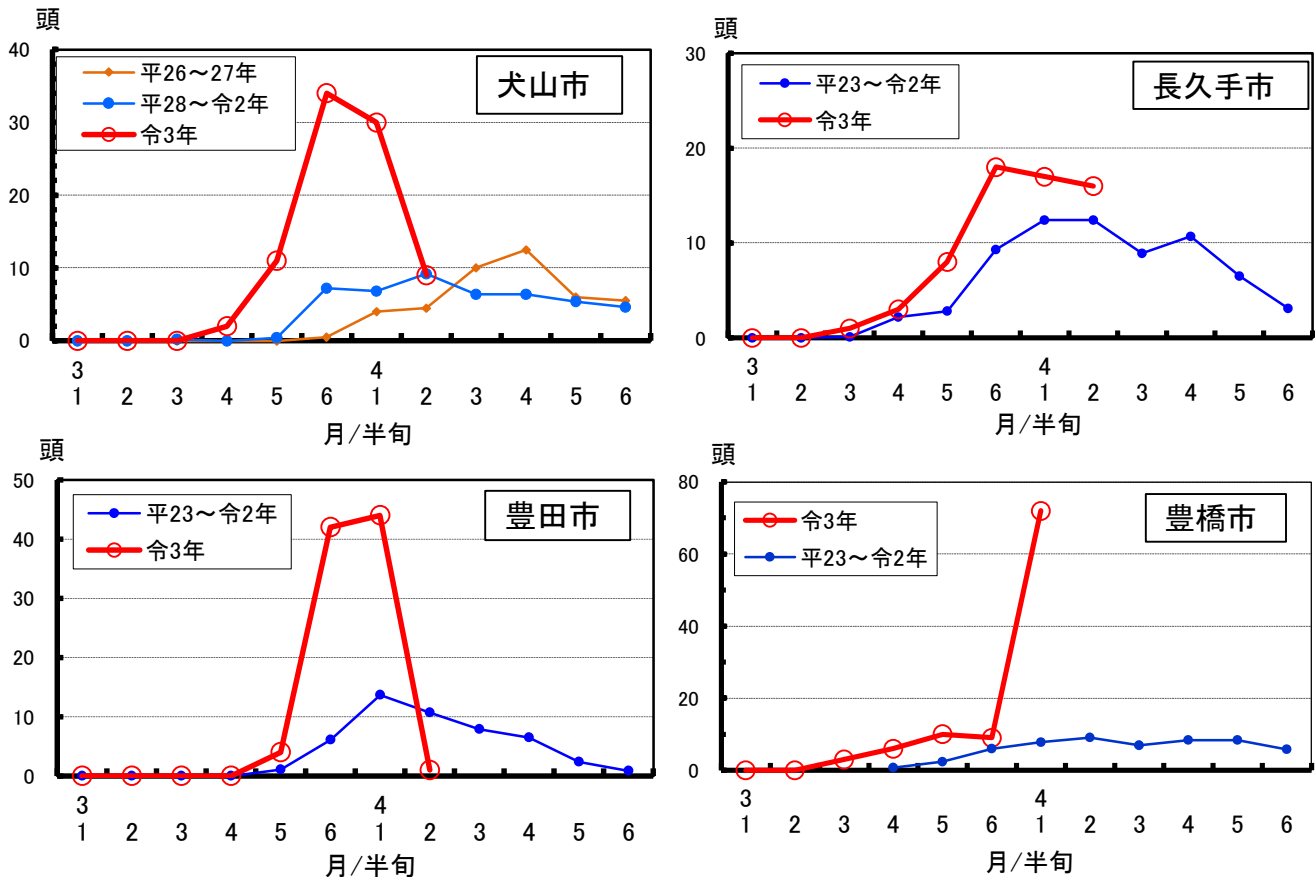


図1 フェロモントラップによるナシヒメシクイ成虫の誘殺状況（速報値）  
※トラップデータについては4月16日にあいち病害虫情報のウェブページ  
で改めて掲載します。

(<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>)

## 2 ナシヒメシンクイについて

本種は、老齢幼虫が果樹の粗皮の割れ目等にまゆを作って越冬し、3月頃に蛹化が始まり、羽化した成虫はモモの新梢や葉裏に産卵します。

ふ化した幼虫は新梢先端に移動し、そこから食入することで「芯折れ」症状を引き起こします（図2）。

その後、世代を繰り返し、幼虫の寄生は果実へと及び、果実への食入による被害を引き起こします（図3）。



図2 新梢の芯折れ被害



図3 果実を食害する幼虫

## 3 防除対策

幼虫が新梢へ食入すると薬剤の効果が低くなるので、防除適期は卵から幼虫がふ化するタイミングです。

成虫の発生ピークが早い（3月第6半旬頃）地域では、まもなく防除適期を迎えると予想されますので、適期を逃さないように表を参考に防除しましょう。

表 もものシンクイムシ類に対する主な防除薬剤

| 農薬名         | 成分名     | 使用時期     | 本剤の使用回数 | IRACコード |
|-------------|---------|----------|---------|---------|
| オリオン水和剤40   | アラニカルブ  | 収穫14日前まで | 2回以内    | 1A      |
| スピノエースフロアブル | スピノサド   | 収穫3日前まで  | 3回以内    | 5       |
| バリアード顆粒水和剤  | チアクロプリド | 収穫前日まで   | 3回以内    | 4A      |
| モスピラン顆粒水溶剤  | アセタミプリド | 収穫前日まで   | 3回以内    | 4A      |

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism\\_irac02.pdf](https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism_irac02.pdf) を参照する。

薬剤散布の際は、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。